

平成27年度 事業報告

社会福祉法人 勝心会

施設長 西川 和代

平成27年度は、3年に一度の介護報酬改定で実質マイナス2.27%の改定となり、加えて特養看護職員の不足による減算もあり厳しい経営状況となった。

特養においては、要介護度3以上の利用者の入居が対象となったため、新しく入居となる利用者の多くは重度の認知症または要介護度5のほぼ寝たきり状態の利用者となり、各職種間が連携をとり利用者の立場に立ったケアに努めた。在宅において虐待（ネグレクト）があった利用者においては、行政と連携をとり緊急枠での入居となったが、入居以来、職員の献身的なケアで、生活の全てにおいて援助が必要な状態から現在は自力にて食事摂取できる状態にまで回復された。

また、ほうらいの里デイサービスでは、在宅での看取りを希望されている利用者を、家族、職員、ケアマネ、訪問看護等との連携を図り最期の数日前までデイサービスの利用を継続して頂き、本人や家族の望む穏やかな看取りが実施できた。

グループホーム清音においては、入居中の利用者が職員と共に生活する中で、心身機能が回復し清音を退居され在宅復帰でき住み慣れた自宅での生活を取りもどされた。

このように、各部署ともに職員間、職種間の連携や他の事業所や行政等との連携を図り利用者、入居者が自分らしい生活ができるように支援した。

人材育成の面では施設内、外への研修はもとより、自己研鑽し社会福祉士資格1名、介護福祉士資格4名、上級認知症ケア専門士資格1名の職員が合格をした。

しかし、疥癬やインフルエンザの流行に伴い清音デイサービスの利用やほうらいの里ショートステイの利用を制限するなど、稼働率の低下にも繋がった。

稼働率・行事関係等については、引き続き別添資料にての報告とします。

また、平成27年度事業実施方針を基に各部署の職員が行った目標の実施結果は、別紙のとおり紙面にて報告させていただきますので、ご確認下さい。